

浜嶋です。

おはようございます。

今月のスカウティング（機関誌）で気付いたことがありました。

1. 「より良き社会人を育てる」の「良い」の意味

私は、ボーイスカウトの目的として、「より良き社会人を育てる」という言葉を使っていますが、いつも「良い」の意味が曖昧だなあとすっきりしない気持ちで使っていました。

「良い」の意味は、指導者も説明された保護者もそれぞれのとらえ方をしているはずで

す。一言で納得し、それ以上考えるまでもないと言え、それまでです。

でも、スカウトを育てる指導者としては、どのような方向に持っていけばこの目的を達成できるかの答えをだすためには、「良い」の基準を理解していないといけません。それが、少し見つかったように思います。

1 1月のスカウティングの5ページに『『良い』とは何か』が説明されています。

この記事は、「活動の中で信仰を奨励する方法」の記事の中にありますから、信仰に関わる1つの考え方を説明しています。

引用すると、

「・・・『良い』の基準とは何でしょう。様々な解釈がありますが、基準の1つに、『良い』とは、神仏の教えに照らし合わせ『人の道（人の生きる道）』に適っているか、正しいのかということがあります。

そして、信仰をもっていることにより、より信念をもって生きることができ、人の道を示すことができます。・・・」

ここでは、「良い」は、「できる能力」というより「正しい道を生きる」という説明です。

「良い子」とは、優しく思いやりの気持ちをもっている子供という意味になるでしょう。

2団は、思いやりの気持ちと感謝の気持ちを大切にする活動を行ってきました。それは「より良き社会人を育てる」ことと同じことです。

私の信仰心について考えると、ここに書いてあるように、私が全く持とうとしない「宗教=信仰心」を、身をもってスカウトたちに行動や態度で示すことが大切だと反省しました。

宗教なんか不要だと思い込んできました。でも、坊さんの説教はいいなあと思うこともしばしばありました。神社やお寺に行けば、必ず手を合わせることも信仰心を大切にする

ことだと思います。満願寺のハイキングでそれをしなかったのは、信仰心を軽視している私の気持ちでした。心の底から、スカウトのためにどのように行動すべきかを反省したいと思います。

2. 西宮第10団「ビーバー1年の締めくくり」

隊長のお話です。

スカウトが、全員で一緒に遊ぶことが難しく、すぐにばらばらになって遊んでいたことを解決するための結論として、たどり着いたのが『楽しく遊ぶ』ことというお話です。

「・・・スカウトを楽しませる工夫ばかり考えていたのですが、そうではなくて、『大人もスカウトも一緒に楽しく遊ぶ』ことがこたえでした。・・・」

2団のやり方は、このような方針でやっていると思います。間違っていなかったと納得しました。

ビーバー隊は、保護者とリーダーと全員で遊ぶ。その方が絶対に楽しいし、保護者とスカウトが共同体験によって、心から一緒に喜べる。会話もできる。

カブ隊でも、デンリーダーや保護者も一緒にゲームを行っていると思います。

大人はスカウトのゲームに参加するのを遠慮しがちですが、リーダーが声をかけてあげればやってくれます。

団行事でも大人と一緒に楽しく遊ぶようにするのが2団のやり方です。間違いありません。スカウト祭も全員がスタントに参加するから楽しさが倍増です。

ところで、保護者のスタントにまた力が入っているようです。楽しみですね。各隊も頑張ってください。